

平成30年11月28日
(2018年)

保護者の皆さまへ

吹田市立山田第五小学校
校長 清水 洋子

平成30年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成30年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、算数、理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取組を進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

◎国語A（『知識』に関する問題）

- ・全国値をやや上回っている。
- ・「書く」領域以外は全国値をやや上回っている。

◎国語B（『知識の活用』に関する問題）

- ・全国値をやや下回っている。
- ・「読む」以外のすべての領域において全国値をやや上回っている。

●国語《各領域における成果と課題と、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと

- ・国語A・Bともに全国値よりやや上回っている。
- ・相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例を挙げながら道筋を立てて話すことができている。
- ・話し合いの参加者として、質問の意図を捉えることができている。

書くこと

- ・国語Aは全国値をやや下回っており、国語Bは全国値とほぼ同じ。
- ・物語を書く時の構成の工夫を考えることに課題が見られる。

読むこと

- ・国語Aは全国値をやや上回っており、国語Bは全国値を下回っている。
- ・目的に応じて必要な情報を捉えることができている。
- ・登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることに課題が見られる。
- ・目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むことに課題が見られる。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・全国値をやや上回っている。(国語Aのみ出題)
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができている。
- ・文の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書くことができている。

●国語科における今後の改善点について

◇主な課題

- ①目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えて書くこと。
- ②目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むこと。
- ③登場人物の心情について、情景描写を基に捉えること。

◇指導改善のポイント

- ※作文指導で、読み手が分かりやすい文章の書き方を工夫し、子ども同士で読みあう機会を作る。
- ※調べ学習の中で、自分の将来につながるような分野の本や文章を選ぶ機会を増やす。
- ※読書活動の時間を多く確保し、登場人物の心情を考える機会を増やす。国語の授業で心情を読み取ったり、読み聞かせ活動の中で登場人物の気持ちを考える時間をとる。

●算数《概要》

算数A（主として知識に関する問題）

- ・全国値を上回っている。
- ・「量と測定」の領域においては全国値とほぼ同じであったが、「数と計算」「図形」「数量関係」の領域では、全国値を上回っている。

算数B（主として活用に関する問題）

- ・全国値を上回っている。
- ・「数量関係」の領域においては、全国値とほぼ同じであったが、「数と計算」「量と測定」「図形」の領域では全国値を上回っている。

●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算

- ・算数 A は全国値を上回っており、算数 B は全国値をやや上回っている。
- ・除数が小数であっても、除法を用いて1に当たる大きさを求めることができている。
- ・条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表すことに、課題がある。

量と測定

- ・算数 A は全国値とほぼ同じで、算数 B は全国値を上回っている。
- ・単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している。
- ・分度器を用いて、180度よりも大きい角の大きさを求めることに課題がある。

図形

- ・算数 A・B とともに全国値を上回っている。
- ・円周率の意味をよく理解できている。

数量関係

- ・算数 A は全国値を上回っており、算数 B は全国値とほぼ同じである。
- ・百分率を求めることができている。
- ・メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し記述することに課題がある。

●算数科における今後の改善点について

◇主な課題

- ①数の仕組みを理解して、分配法則や結合法則などを用いること。
- ②角の大きさを測定したり、角の大きさについて量感を持つたりすること。
- ③資料の情報を分類・整理して課題解決に活用すること。

◇指導の改善ポイント

- ※算数的活動を通して、数理的な処理の良さに気付いていけるようにする。
- ※角の大きさを測ったり、作図したりする活動を通して角の量感を養う。
- ※課題を解決するために必要な資料を分類整理し、表現したり読み取ったりできるようにする。

●理科《概要》

◎『基礎・基本的な知識・技能』に関する問題

- ・全国値をやや下回っている。
- ・骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解することに課題がある。

◎『知識・技能の活用』に関する問題

- ・全国値を上回っている。
- ・安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想できている。
- ・調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析できている。

●理科《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

物質

- ・ろ過の適切な操作方法を身に付けている。
- ・2つの異なる方法の実験結果を分析して考察することに課題がある。

エネルギー

- ・電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できている。
- ・実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善できている。

生命

- ・人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できている。
- ・調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析できている。

地球

- ・堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している。
- ・実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することに課題がある。

●理科における主な課題と今後の改善点について

◇主な課題

- ①科学的な言葉や概念の理解。
- ②実験結果を基に自分の考えを記述すること。
- ③学んだことの自然の事物・現象への適用。

◇指導の改善ポイント

- ※器具の操作の意味を捉え、適切な扱い方を理解させる指導を引き続き行っていく。
- ※実験・観察・体験活動をできるだけ多く行い、それらの結果について自分の考えを深めさせる指導の工夫をしていく。
- ※自然の事物・現象の変化や規則性を捉え、これまでに獲得した知識を意識して適用する場面を作っていく。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」は、全国値をやや上回っている。
- ・「将来の夢や目標を持っている」児童は、全国値より下回っている。
- ・「毎日決まった時刻に就寝・起床している」児童の割合は、全国値を下回っている。
- ・「家で学校の宿題をする」児童は、全国値とほぼ同じで9割以上いる。
- ・「学校の授業時間以外で30分以上読書をしている」児童が全国より多いが、全くしないと答えた児童が25%いる。
- ・「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする」児童は、全国値を下回っている。
- ・「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味を持っている」児童は、全国値より下回っている。
- ・「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）」は、全国値とほぼ同じ。

【教科・学習について】

- ・「算数の授業が好きで大切だと思っている」児童は、全国値を下回っている。
- ・「算数の問題の解き方が分からない時は、諦めずにいろいろな方法を考える」児童は、全国値をやや下回っている。
- ・「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っている」児童は、全国値をやや上回っている。
- ・「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか」では月1回以上を全国値より上回っている。
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」児童は、全国値を下回っている。

3 今後の取り組み

本校では、「自ら考え、主体的に活動する 優しくたくましい子を育てる」を教育目標とし、「よく考える子、助け合う子、元気な子」をテーマに掲げ、日々教育活動に取り組んでいます。今年度は、『道徳』を努力目標にし、友だちと話し合って意見交流することで自分の考えを深めたり自分を振り返ったりする取り組みを進めて参りました。

国語科においては、漢字学習の定着を図るため、「山五漢字検定」に取り組んでいます。また「読書大好き児童」を育てるため、学校図書や学級文庫を充実させると共に、「朝の読書」「読み語り」等の時間を設け、業間や放課後の図書室の開放をするといっ

た工夫により、前年度、全児童による学校図書貸出冊数が、10,000冊を超えました。

算数科においては、一人ひとりを見つめていくための少人数指導や、計算力の定着を図るためのダイヤモンド大作戦（始業時小テスト）を引き続き実施するとともに、「思考力」を育てるための授業の工夫を行っています。

理科の授業においては実験を充実させて、その予想や振り返りなどの考察を深める指導をして参ります。

日々の授業においては、落ち着いて学習に取り組めるよう、チャイムと同時に授業を始める、席を離れる時には椅子を入れる、下敷きを使うといった学習規律を身につける指導にも力を入れて取り組んでいます。

今回の学力調査では良好な結果が得られた項目もありますが、十分に学習内容が理解できていない部分もあることが分かりました。

これからも各教科における基礎・基本的な知識・技能の獲得を目指すと同時に「自分の考えをまとめる」「考えた根拠を示し、表現する」「応用問題にも粘り強く取り組む」ことができるよう、工夫を重ね、学ぶ意欲を高める授業作りを進めて参ります。

生活習慣に関する結果からは、規則正しい生活を心掛ける必要があることが分かります。また、コンピューター、スマートフォンを使ったゲームで、犯罪などに巻き込まれないためにも、使用方法や時間を決めるなどのルール作りをしていくことが大切です。学校でも、4・5・6年生に向けて「携帯電話安全教室」を開きました。ご家庭でも引き続き、ルール作り等について話し合いをしていただきますようお願いいたします。

学習環境に関する結果からは、一人ひとりが更に成長していくためにも、「将来の夢や目標」をもつことが大切でしょう。また、新聞やニュース、地域の活動等の日常生活での体験を通して、様々な事柄に興味や関心を持つことも、子どもの心身の成長につながると考えています。

教科・学習に関する結果からは、国語・算数・理科の授業で学習したことは将来役に立つと思っている児童が多いことが分かりました。その気持ちを大切に、一人ひとりの児童に応じた学力の向上を目指し、ご家庭と十分連携をとりながら、児童の自立と幅広い学習の機会を作っていこうと考えております。

今後ともご協力の程よろしくお願い致します。